

2022年1月28日

### 2022年1～3月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査

## 変異株の感染急拡大で、県内産業景気の先行きは再び不透明に































静岡経済研究所（理事長 馬瀬和人）では、昨年12月に実施した「静岡県内主要産業四半期見通し調査」の結果をとりまとめましたので、その内容をお知らせします。

#### 現況

- 県内産業の現況（2021年10～12月期）は、『好調』が「工作機械」の1業種、『順調』が「情報サービス」の1業種、『普通』が「製紙」「食品・飲料」「民生用電器部品」「二輪車部品」「住宅」の5業種となった。
- 『低調』は「自動車部品」「建設」「大型小売店」「自動車販売」「物流」「人材派遣」「外食」の7業種で、『不調』は「観光・レジャー」の1業種となった。

#### 今後の見通し

- 2022年1～3月期の見通しについては、引き続き『好調』が1業種、『順調』が1業種、『普通』が5業種となる。
- 「観光・レジャー」が一段階上昇することで、『低調』が8業種となり、『不調』の業種はなくなる見通し。
- 年明け以降、コロナ変異株による感染が全国的に急拡大しており、昨年末にかけて持ち直してきた県内産業景気は、再び先行き不透明感が増しつつある。
- 今後、海外も含めた感染の状況次第では、部品調達難や原材料高がさらに加速する恐れもあり、輸送用機器など県内主力産業への影響が懸念される。

業 種	業 界 天 気 現況 (10-12月) 見通し (1-3月)
製 紙	 → 
食 品 ・ 飲 料	 → 
工 作 機 械	 → 
民生用電器部品	 → 
自 動 車 部 品	 → 
二 輪 車 部 品	 → 
建 設	 → 
住 宅	 → 
大 型 小 売 店	 → 
自 動 車 販 売	 → 
物 流	 → 
情 報 サ ー ビ ス	 → 
人 材 派 遣	 → 
観 光 ・ レ ジ ャ ー	 → 
外 食	 → 

※本件のお問合せ先 大石 彰男

## 変異株の感染急拡大で、県内産業景気の先行きは再び不透明に

### 業界景気の現況（2021年10～12月期）

県内産業の現況（2021年10～12月期）は、『好調』が「工作機械」の1業種、『順調』が「情報サービス」の1業種、『普通』が「製紙」「食品・飲料」「民生用電器部品」「二輪車部品」「住宅」の5業種、『低調』が「自動車部品」「建設」「大型小売店」「自動車販売」「物流」「人材派遣」「外食」の7業種で、『不調』は「観光・レジャー」の1業種となった。

### 業界景気の見通し（2022年1～3月期）

1～3月期の見通しについては、引き続き『好調』が1業種、『順調』が1業種、『普通』が5業種となる。「観光・レジャー」が一段階上昇することで、『低調』が8業種となり、『不調』の業種はなくなる見通し。年明け以降、コロナ変異株による感染が全国的に急拡大しており、昨年末にかけて持ち直してきた県内産業景気は、再び先行き不透明感が増しつつある。今後、海外も含めた感染の状況次第では、部品調達難や原材料高がさらに加速する恐れもあり、輸送用機器など県内主力産業への影響が懸念される。

製造業の動向をみると、内・外需ともに好調な「工作機械」が『好調』を維持。完成車メーカーが挽回生産を計画する「自動車部品」が『低調』から『普通』に一段階上昇するが、変異株の急拡大で再び部品の調達難に陥ることも予想され、下振れする可能性もある。高機能な新型家庭用エアコンの需要が旺盛な「民生用電器部品」、コロナ禍でも趣味的の高い大型車などの需要が増している「二輪車部品」のいずれも、自動車部品と同じく部品不足で先行きが見通しにくく『普通』のまま推移する見通し。また、トイレ紙の業務用需要に回復の兆しが出てきた「製紙」、原材料価格の上昇で収益悪化が懸念されるものの内食需要が底堅い「食品・飲料」の2業種も『普通』を維持する見込み。






非製造業では、デジタル化需要が底堅い「情報サービス」が『順調』のまま推移。大河ドラマ効果が期待される「観光・レジャー」が『不調』から『低調』に一段階上昇する見通し。一方、駆け込み需要の反動減で低水準だった前年並みにとどまる「住宅」が『普通』から『低調』に一段階下降する見込み。

そのほか、公共工事が反動減で減少、民間工事も感染拡大により設備投資への影響が懸念される「建設」、相次ぐ食品の値上げで消費マインドへの影響が懸念される「大型小売店」、供給不足が長引き販売台数が低調に推移する「自動車販売」、食品や飲料などの消費関連が底堅いものの輸送用機器や電気機械などの輸送が伸び悩む「物流」、事務系の新規派遣が低調な「人材派遣」、変異株の急拡大で影響が懸念される「外食」が、それぞれ『低調』のまま推移する見通し。

# 2022年1～3月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

業 種	業 界 天 気 現況 (10-12月)	見通し (1-3月)	売 上 高 (前年同期比伸び率)	主 要 産 業 の 見 通 し
製 紙		→ 	→	トイレ紙の業務用需要は小幅回復、板紙需要は総じて堅調
食 品 ・ 飲 料		→ 	→	缶や食用油など原材料価格の上昇で、収益は悪化する見通し
工 作 機 械		→ 	↗	国内外の景気回復を背景に、内・外需ともに好調に推移
民生用電器部品		→ 	→	需要は旺盛だが、部品調達難が長引き、前年並みで推移
自 動 車 部 品		→ 	↗	挽回生産で前年比増を見込むが、部品調達難で下振れする可能性も
二 輪 車 部 品		→ 	→	需要は好調だが、生産面に懸念が残り前年並みで推移
建 設		→ 	↘	公共工事は反動減、民間工事は感染拡大懸念で前年を下回る
住 宅		→ 	→	駆け込み需要の反動で、低調だった前年並みにとどまる
大 型 小 売 店		→ 	↗	相次ぐ食品の値上げで、消費マインドの冷え込みを懸念
自 動 車 販 売		→ 	↘	供給が間に合わず、販売台数は引き続き低調に推移
物 流		→ 	↗	消費関連が底堅く推移し、輸送量は前年をやや上回る模様
情 報 サ ー ビ ス		→ 	↗	デジタル化需要は底堅く、堅調な受注環境が続く
人 材 派 遣		→ 	↗	自治体からの派遣需要が増加、事務系は新規派遣が低調
観 光 ・ レ ジ ャ ー		→ 	↗	変異株の影響が懸念されるが、大河ドラマ効果で前年比プラス
外 食		→ 	↗	変異株の感染拡大次第で、売上は前年割れの可能性も

## 表の見方

業 界 天 気				売 上 高	
	好 調		低 調	↗	非常に増加(+10%以上)
	順 調		不 調	↗	増 加(+3～+9%)
	普 通			→	横 ば い(+2～△2%)
				↘	減 少(△3～△9%)
				↘	非常に減少(△10%以上)

# 静岡県内主要産業四半期見通し調査『現況』推移

年 次	2019年				2020年				2021年			
四 半 期	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV (今回調査)
対象月 (○は調査月)	1～③	4～⑥	7～⑨	10～⑫	1～③	4～⑥	7～⑨	10～⑫	1～③	4～⑥	7～⑨	10～⑫
全業種の 平均階級値	2.90	3.15	2.90	2.65	2.30	1.67	1.67	1.87	2.47	2.53	2.40	2.60
好調：5												
順調：4												
普通：3												
低調：2												
不調：1												
(業 種 数)	好調	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	順調	4	3	5	3	2	1	0	2	3	2	1
	普通	10	11	8	8	5	3	2	5	4	4	5
	低調	6	4	7	8	10	1	2	6	6	7	7
	不調	0	0	0	1	3	10	10	2	2	2	1

注1) 「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点(12月調査であれば10～12月期)における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期(12月調査であれば1～3月期)の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は以下の通り。  
調査時点…2021年12月上旬  
回答企業…県内主要15業種(212社)

注3) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、15業種の平均値。  
(2020年1～3月期までは20業種の平均値)

## 各業種および表の見方

## 製 紙

トイレ紙の業務用需要は小幅回復、板紙需要は総じて堅調

<b>【現況】</b>  <b>【見通し】</b> 	<b>【10-12月期】</b> トイレ紙の生産量は、長く低迷していた業務用需要で、堅調な需要が期待される。段原紙は、前年をやや上回った模様。 <b>【1-3月期】</b> トイレ紙の生産量は、感染拡大懸念が払拭できず、期待される業務用の回復は小幅にとどまる見通し。タオル用紙は、前年をやや上回る見込み。加工食品向けや通販・宅配向けなど、需要は総じて堅調な見込み。原紙メーカー各社は2月以降に値上げを実施予定。	<b>国内紙・板紙生産量(前年比)</b> 
	<b>【1-3月期売上高】</b> 前年同期比 10-12月期比 → →	<b>操 業 度</b> 需給バランス 製品在庫水準 原材料価格 製品価格 受注残 89～80% 均衡 適正 上昇 上昇 0.1～1.0ヵ月

操 業 度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受 注 残
100～90%	非常に需要超過	非常に過少	非常に上昇	非常に上昇	カ 月
89～80%	需要超過	過 少	上 昇	上 昇	
79～70%	均 衡	適 正	横 ば い	横 ば い	
69～60%	供給超過	過 多	下 降	下 降	
59%以下	非常に供給超過	非常に過多	非常に下降	非常に下降	

# 主要業種景況見通し

## 製 紙

### トイレ紙の業務用需要は小幅回復、板紙需要は総じて堅調

【現況】



【見通し】



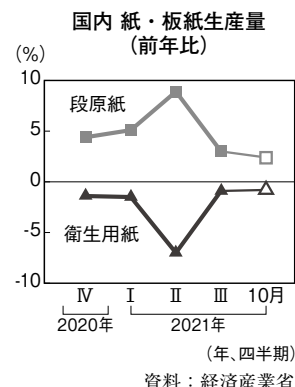
【1-3月期売上高】

前年同期比 10-12月期比



【10-12月期】 トイレ紙の生産量は、長く低迷していた業務用需要で年末に回復の兆しがみられた。タオル用紙は堅調な需要が続き、ティッシュは前年の反動で増加した。段原紙の生産量は、加工食品向けが減少したものの、通販・宅配向けは好調で、前年をやや上回った模様。

【1-3月期】 トイレ紙の生産量は、感染拡大懸念が払拭できず、期待される業務用の回復は小幅にとどまる見通し。タオル用紙は前年並み、ティッシュは前年をやや上回る見込み。段原紙は、閑散期に入るものの、加工食品向けや通販・宅配向けなど、需要は総じて堅調な見込み。メーカー各社は2～3月の値上げ実施を表明。



操 業 度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品 価 格	受 注 残
89～80%	均衡	適正	上昇	上昇	0.1～1.0ヵ月

## 食品・飲料／製茶

### 缶や食用油など原材料価格の上昇で、収益は悪化する見通し

【現況】



【見通し】



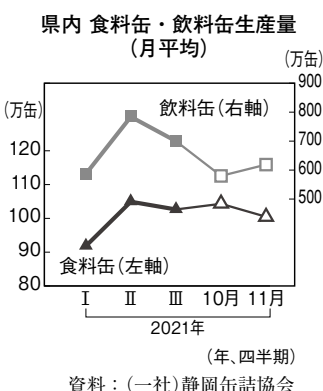
【1-3月期売上高】

前年同期比 10-12月期比



【10-12月期】 食品・飲料：県内食料缶メーカーの売上高は前年並みで推移した。ツナ缶は減少したものの、業務用の売上が回復した。飲料缶類の生産量は、小型缶を中心に需要が上向き、前年並みだった。製茶：製茶問屋の売上高は、問屋間売上の停滞などで前年を下回った。

【1-3月期】 食品・飲料：県内食料缶メーカーの売上高は、前年並みの見通し。内食需要が底堅く推移するが、缶や食用油など原材料価格の上昇で収益は悪化する模様。飲料缶類の生産量は、県外ブランドオーナーの内製化が進み、前年を下回る見通し。製茶：製茶問屋の売上高は、前年を下回る模様。

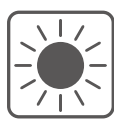


操 業 度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品 価 格	受 注 残
89～80%	均衡	適正	上昇	横ばい	0.1～1.0ヵ月

## 工作機械

### 国内外の景気回復を背景に、内・外需ともに好調に推移

【現況】



【見通し】



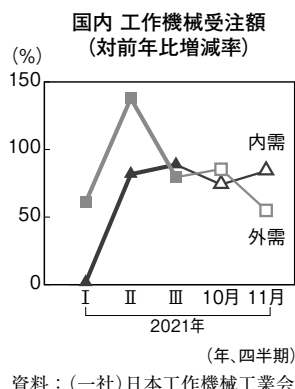
【1-3月期売上高】

前年同期比 10-12月期比



【10-12月期】 全国および県内の受注額は、前年を大幅に上回った模様。メインの外需は、中国向けが減速傾向ながらも堅調に推移、欧米向けは経済活動の正常化に伴い大きく伸長した。内需は、一般機械や電気・精密機械向けを中心に回復が進み、堅調な受注環境が続いた。

【1-3月期】 全国および県内の受注額は、前年を上回る見通し。コロナ後を見据えて企業の設備投資意欲が向上、内・外需ともに着実な回復が続くとみられる。半導体や樹脂製品を中心とした部品・部材不足、国際物流の混乱などの懸念材料が払拭されれば、さらなる業績拡大が見込まれる。



操 業 度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品 価 格	受 注 残
89～80%	需要超過	適正	上昇	横ばい	1.0～13.0ヵ月



## 民生用電器部品

### 需要は旺盛だが、部品調達難が長引き、前年並みで推移

【現況】



【見通し】



【1-3月期売上高】

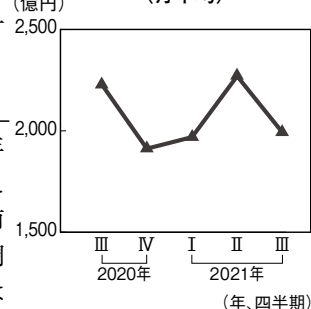
前年同期比 10-12月期比



【10-12月期】県内の家庭用エアコンの出荷台数は、東南アジアから調達している複数の部品の調達が滞った影響で生産調整を強いられ、前年を△20%程度下回った。一方、冷蔵庫は部品の調達に大きな支障はなく、前年を+10%程度上回った模様。

【1-3月期】県内の家庭用エアコンの出荷台数は、前年並みで推移する見通し。空気清浄機能や換気機能を備えた新製品の需要が旺盛で受注量が積み上がる一方、東南アジアでのコロナ変異株の感染拡大が懸念され、部品調達の回復時期が見通しにくいことから、大幅な増加には至らないとみられる。

国内 家庭用電気機器出荷額  
(月平均)



(年、四半期)

資料：経済産業省

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
79~70%	需要超過	過少	上昇	上昇	1.0~3.5ヵ月

## 自動車部品

### 挽回生産で前年比増を見込むが、部品調達難で下振れする可能性も

【現況】



【見通し】



【1-3月期売上高】

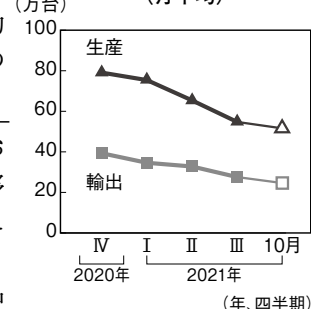
前年同期比 10-12月期比



【10-12月期】全国の自動車生産台数は、前年実績を△15%程度下回った模様。半導体や東南アジアからの部品調達難の影響で、完成車メーカーでは生産調整が断続的に実施された。その影響を受けて、県内部品メーカーの生産量も前年実績を下回って推移したとみられる。

【1-3月期】完成車メーカーでは挽回生産を計画しており、全国の自動車生産台数は、前年実績を上回って推移する見通し。ただし、半導体不足が解消したとはいえ、変異株の急拡大により再び部品の調達難に陥ることも予想され、生産調整が実施された場合には、県内部品メーカーの生産量は下振れする可能性もある。

国内 自動車生産・輸出台数  
(月平均)



(年、四半期)

資料：(一社)日本自動車工業会

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	需要超過	適正	上昇	横ばい	0.5~2.5ヵ月

## 二輪車部品

### 需要は好調だが、生産面に懸念が残り前年並みで推移

【現況】



【見通し】



【1-3月期売上高】

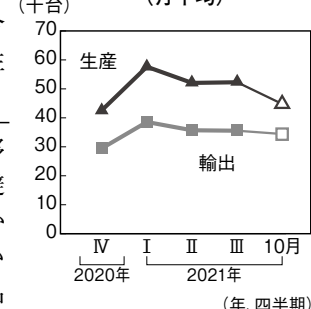
前年同期比 10-12月期比



【10-12月期】全国の完成車生産台数は、前年をわずかに下回って推移した模様。需要は旺盛だったものの、半導体不足や海外製部品の調達難などにより、生産が間に合わなかった。こうした状況下、県内部品メーカーの受注量も前年をわずかに下回ったとみられる。

【1-3月期】全国の完成車生産台数は、前年並みで推移する見通し。趣味性の高いレジャー用大型車や、密を避けられる通勤用原付車の人気は好調が続く模様。しかし、半導体不足や海外製部品の調達難が解消していないため下振れの懸念も残る。こうした状況下、県内部品メーカーの受注量も前年並みで推移する見込み。

国内 二輪車生産・輸出台数  
(月平均)



(年、四半期)

資料：(一社)日本自動車工業会

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	需要超過	適正	上昇	横ばい	0.5~1.5ヵ月

## 建設

### 公共工事は反動減、民間工事は感染拡大懸念で前年を下回る

【現況】



【見通し】



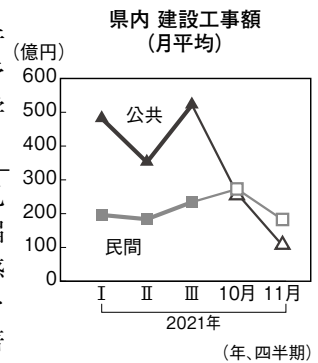
【1-3月期売上高】

前年同期比 10-12月期比



【10-12月期】県内の公共工事契約高は、前年をやや下回った模様。国関係は、橋梁工事や護岸工事などの案件が動いたが前年水準には届かなかった。民間の工事費予定額は、設備投資意欲の改善により、製造業や教育、学習支援業を中心に着工が増加し、前年を上回った。

【1-3月期】県内の公共工事契約高は、前年を下回る見通し。国関係で大型の補正予算が執行された前年には届かない見込み。民間の工事費予定額は、変異株による感染拡大により設備投資意欲への影響が懸念され、前年をやや下回って推移する見通し。また、鋼材価格の上昇が著しく、建設会社の収益率は一層厳しくなると予想される。



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	均衡	適正	上昇	横ばい	1.5~10.0ヵ月

## 住宅

### 駆け込み需要の反動で、低調だった前年並みにとどまる

【現況】



【見通し】



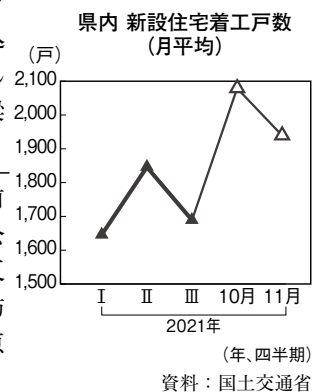
【1-3月期売上高】

前年同期比 10-12月期比



【10-12月期】県内の新設住宅着工戸数は、昨年9月末で特例措置が一旦終了した住宅ローン減税に対する駆け込み需要が一定数あり、前年を上回った模様。持家がけん引し、コロナ前の水準に戻した。一方で木材価格は、梁の材料を中心に高止まりが続いた。

【1-3月期】県内の新設住宅着工戸数は、低調だった前年並みにとどまる見通し。住宅ローン控除の新制度など公的支援の後押しは継続するが、前期の駆け込み需要の反動は避けられず、感染拡大懸念から住宅展示場への来訪も伸び悩みそうで、受注の上積みは見込めない。また、原材料価格の高止まりで、収益悪化が深刻化しそう。



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	均衡	適正	上昇	上昇	1.5~11.5ヵ月

## 大型小売店

### 相次ぐ食品の値上げで、消費マインドの冷え込みを懸念

【現況】



【見通し】



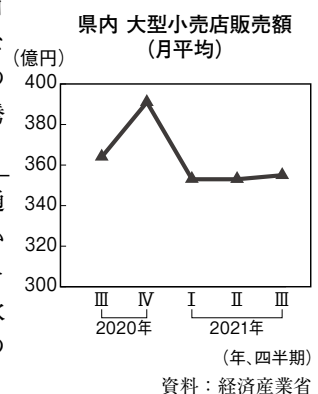
【1-3月期売上高】

前年同期比 10-12月期比



【10-12月期】県内の総販売額は前年をやや上回った。百貨店は、緊急事態宣言の解除で来客数が回復し、時計など高額品の販売額が伸長した。総合スーパーは、主力の飲食料品を中心に前年並みで推移した。精肉は価格高騰の影響を受けたが、弁当や総菜類が堅調に推移した。

【1-3月期】県内の総販売額は前年をやや上回る見通し。百貨店は、変異株の感染拡大で不透明感が増しているものの、高額品が堅調に推移する見込み。総合スーパーは、昨年、第3波の影響を受けて内食が増えた反動で、飲食料品の販売減少が見込まれる。また、精肉や油脂などの価格高騰の影響で、販売量の減少が予想される。



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
—	供給超過	—	上昇	上昇	—

## 自動車販売

### 供給が間に合わず、販売台数は引き続き低調に推移

【現況】

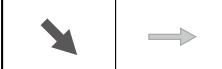


【見通し】



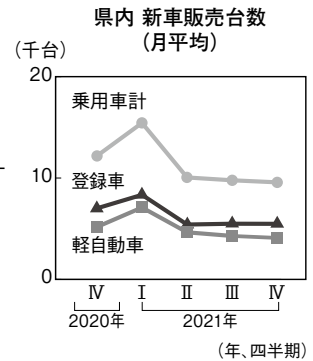
【1-3月期売上高】

前年同期比 10-12月期比



【10-12月期】県内の新車販売台数は、前年比△21.4%と大きく減少した。特に、10月の販売台数は前年比△35.6%と大幅なマイナスとなった。前年が好調だった反動もあるが、半導体不足や東南アジア製の部品不足による減産に伴う納車遅れが大きく響いた。

【1-3月期】県内の新車販売台数は、前年比△10%程度下回って推移する見通し。半導体や東南アジア製部品の調達難の解決は難しく、SUVなどの人気車種を中心に納車が長期化、すでに最需要期である3月に納車が間に合わない車種が出ている。ただし、需要は十分に大きいいため、生産が回復すれば上振れする可能性もある。



資料：(一社)日本自動車販売協会連合会静岡県支部  
(一社)全国軽自動車協会連合会静岡事務所

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
100~90%	需要超過	過少	横ばい	横ばい	3.0~4.0ヵ月

## 物流

### 消費関連が底堅く推移し、輸送量は前年をやや上回る模様

【現況】



【見通し】



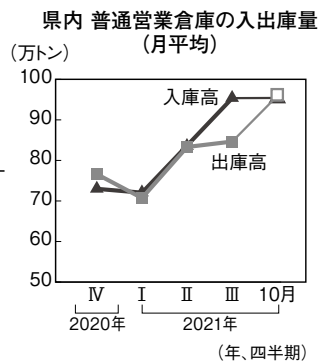
【1-3月期売上高】

前年同期比 10-12月期比



【10-12月期】県内のトラック輸送量は、前年をやや上回る水準で推移したとみられる。半導体や部品不足の影響から輸送用機器が低調だったものの、消費関連は堅調に推移した。普通倉庫の入出庫高は、鉄鋼や電気機械の荷動きが堅調に推移し、前年を+10%程度上回った模様。

【1-3月期】県内のトラック輸送量は、前年をやや上回る水準で推移する見通し。輸送用機器や電気機械などは伸び悩むと見込まれるが、食品や飲料などの消費関連は底堅く推移すると予想される。普通倉庫の入出庫高は、年度末にかけて荷動きの活発化に期待がかけられ、前年並みの水準は確保できる模様。



資料：静岡県倉庫協会

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	均衡	—	上昇	横ばい	—

## 情報サービス

### デジタル化需要は底堅く、堅調な受注環境が続く

【現況】



【見通し】



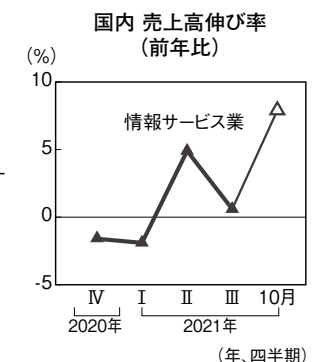
【1-3月期売上高】

前年同期比 10-12月期比



【10-12月期】全国および県内の売上高は、前年を上回って推移した模様。昨年9月末の緊急事態宣言解除以降は感染者数が低位安定したことで、営業・開発ともに順調に進行した様子。企業業績が回復に向かう中、デジタル関連投資の機運が一段と高まった。

【1-3月期】全国および県内の売上高は、前年をやや上回って推移する見通し。あらゆる業種でデジタル化需要は底堅く、足元で営業活動が円滑に進んでいることで、前年実績からの積み上げが見込まれる。変異株の感染拡大など案件の進捗に支障をきたすリスク要因はあるが、堅調な受注環境が続くとみられる。



資料：経済産業省  
「特定サービス産業動態統計調査」

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
100~90%	均衡	—	横ばい	横ばい	—



## 人材派遣

### 自治体からの派遣需要が増加、事務系は新規派遣が低調

【現況】



【見通し】



【1-3月期売上高】

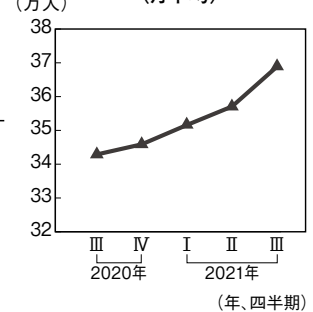
前年同期比 10-12月期比



【10-12月期】県内の派遣社員の実稼働者総数は、前年をやや上回る水準で推移した模様。食品加工やサービス業が低調に推移した一方、一部の製造業や倉庫業を中心に派遣スタッフ需要が増加した。また、自治体の協力金、支援金事業等の派遣スタッフ需要も増加した模様。

【1-3月期】県内の派遣社員の実稼働者総数は、前年をやや上回る水準で推移する見通し。事務系では新規派遣が慎重に推移するとみられるが、倉庫業では需要が高止まる状況が続く見込み。また、感染症再拡大の懸念から、ワクチン接種会場スタッフや受付・コールセンター等の増員が見込まれ、自治体からの需要が増加する見通し。

全国 派遣社員の実稼働者数  
(月平均)



資料：(一社)日本人材派遣協会

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
79~70%	均衡	—	上昇	上昇	—

## 観光・レジャー

### 変異株の影響が懸念されるが、大河ドラマ効果で前年比プラス

【現況】



【見通し】



【1-3月期売上高】

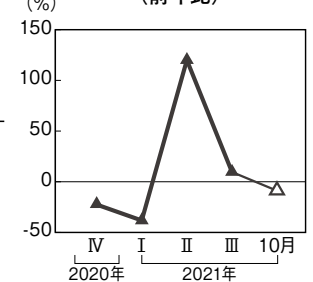
前年同期比 10-12月期比



【10-12月期】県内主要旅館の総売上高は、前年を△3～4割下回った模様。9月末に緊急事態宣言が解除されて宿泊需要は回復したが、Go To トラベルが再開されず前年のような特需は発生しなかった。また、営業を本格化させる際に従業員確保に苦慮する施設が散見された。

【1-3月期】県内主要旅館の売上高は、前年をやや上回る見通し。変異株による感染拡大で外出を自粛する人が増える懸念はあるが、ワクチン接種済みの人も多く、昨年よりも外出する人は増える模様。特に中伊豆地区は大河ドラマの舞台となるため、日帰り客を中心に観光客の上積みが期待できそう。

県内 宿泊者数  
(前年比)



資料：観光庁

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
—	供給超過	—	上昇	横ばい	—

## 外食

### 変異株の感染拡大次第で、売上は前年割れの可能性も

【現況】



【見通し】



【1-3月期売上高】

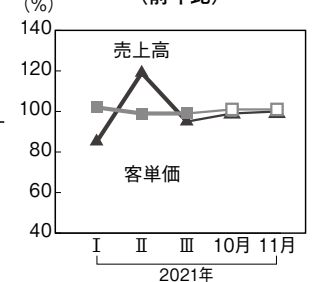
前年同期比 10-12月期比



【10-12月期】主要外食店の売上高は、前年並みで推移した模様。緊急事態宣言の解除や感染者数の減少に伴い、個人客を中心に売上高、来客数が回復した。居酒屋では忘年会などで団体客需要の回復は限定的だった。デリバリーや宅配などは引き続き堅調だった。

【1-3月期】主要外食店の売上高は、前年を上回る見通し。コロナ感染第3波で売上高、来客数が大幅に減少した前年実績を上回ると予想されるが、変異株の感染拡大次第では減少する可能性もある。食品の値上げなど原材料価格や運送費の上昇が続く中、販売価格への転嫁が難しく、収益は悪化する見通し。

全国 外食売上高・客単価  
(前年比)



資料：(一社)日本フードサービス協会

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
—	供給超過	—	上昇	横ばい	—

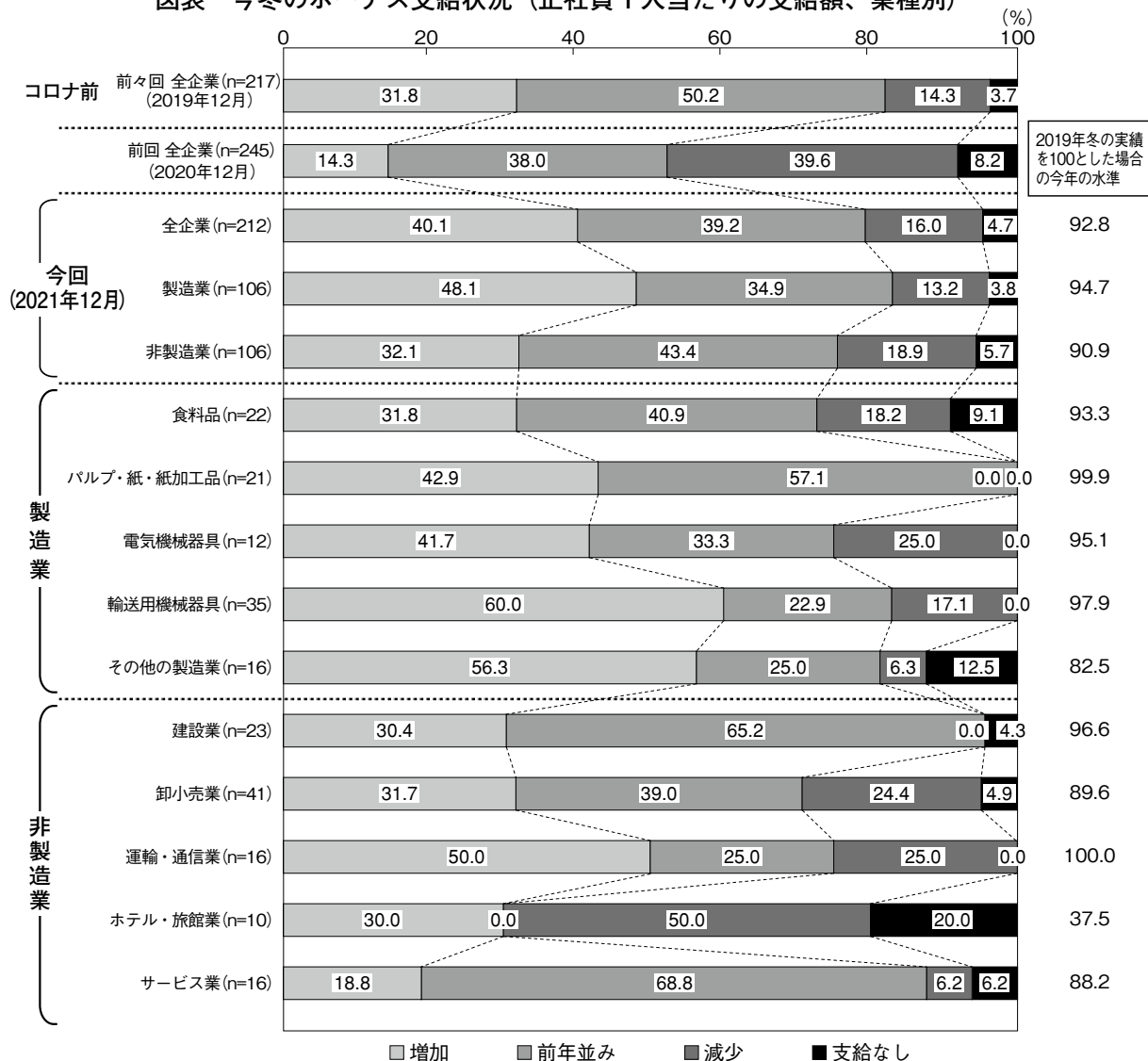
## 特別調査

### 冬のボーナスは回復に転じるが、多くの業種でコロナ前には至らず

県内企業に、今冬のボーナス支給について質問したところ、前年より「増加」させると回答した企業が40.1%と、前年調査（2020年12月、14.3%）比+25.8ポイント増えた一方、「減少」させるとの回答は16.0%と、前年調査（同、39.6%）比△23.6ポイント減少し、多くの業種で回復に転じた（図表）。ただし、コロナ前のボーナス支給実績額を100とした場合の今回の全体の平均水準は92.8と、コロナ前の水準には戻っていない。

業種別にみると、製造業では、部品不足が足かせとなっているものの需要が堅調な“輸送用機械器具”で「増加」と回答した企業が60.0%と6割に達した。また、非製造業では、“運輸・通信業”で「増加」との回答が50.0%と5割に達した一方、コロナ禍で苦境にあえぐ“ホテル・旅館業”では「減少」が50.0%と半数を占め、「支給なし」も2割に達するなど、厳しい状況が続いている。

図表 今冬のボーナス支給状況（正社員1人当たりの支給額、業種別）



調査要領：調査時点2021年12月、調査対象企業577社、回答社数212社、有効回答率36.7%